

そよかぜ

第77号

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

神戸市立 西神戸医療センターの基本理念

神戸西地域に根づいた
安心・安全な医療をめざします

発行日/令和8年2月
編集人/総務課長 鴨川 泰彦

<https://nmc.kcho.jp/>



平素より当院の運営にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

当院では2月23日に電子カルテの更新を行います。それに伴い2月20日夜から2月23日午前まで救急外来を停止、新規入院を制限させていただきます。その間皆様方にはご不便をおかけすることになりますが、今回の電子カルテ更新を機にIT化をさらに進めて、より円滑な外来・入院診療を行えるよう心がけていきますので、ご理解のほどよろしくお祈いします。

当院は以前より「外来での待ち時間が長い」という問題を抱えており、なかなか解決できずにいました。今回の電子カルテ更新を機に「通院支援アプリ Wellcne (ウェルコネ)」を導入します。みなさまのスマートフォンにこのアプリ登録していただくことにより、①待ち順プッシュ通知、②診察予約のリマインド、③予約状況確認機能、④処方箋送信機能、⑤診療費後払い機能、という機能が利用できるようになります。

①によって院外での診察待ちも可能になります。⑤の後払い機能は、診察後に会計計算を待つことなく帰宅できる機能です。従来から「ラク～だ」で利用可能でしたが、支援アプリと一体化することでより多くの皆様に利用していただけるようになれば、会計待ち時間の短縮に繋がると期待しています。アプリ導入後3ヶ月間はサポートブースを設置して、アプリ登録や使用方法の説明をさせていただきますので、ぜひご利用を検討してみてください。

立春とはいうもののまだまだ寒い日々が続いています。インフルエンザ、コロナなどの感染症の流行が心配される時期ですので、マスク、手指衛生などの感染予防対策を心がけてください。



副院長
永澤 浩志

神戸市立西神戸医療センター

〒651-2273 神戸市西区糀台5丁目7番地1 TEL: 078-997-2200(代表)

栄養サポートチーム (NST)

NST(栄養サポートチーム)について

NST(栄養サポートチーム)は、患者さん一人ひとりに合わせた最適な栄養ケアを行うために、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、事務職員等の専門職が集まったチームです。

NST回診チーム

月曜チーム

10階東西・救急

木曜チーム

5階西・6階東西
8階東・9階西・救急

ICU入室中は、ICU早期離床
推進チームが担当

医師

歯科医師

看護師

管理栄養士

薬剤師

言語聴覚士

臨床検査技師

理学療法士

歯科衛生士

火曜チーム

7階東西
救急

金曜チーム

8階西・9階東
救急

口腔ケアチーム
水曜日・全病棟

必要とする栄養の量はどのくらいか、どのようにして栄養をとるのかは、患者さんの様子や病気の内容によって異なります。入院患者さんの約2割が低栄養であるといわれています。栄養状態が悪いと治る病気も治らず、また余計な合併症を引き起こす原因にもなります。そこで、患者さんの状態に応じて適切な栄養管理を行う栄養サポートが必要です。

入院時に患者さんの栄養状態をスクリーニング、栄養評価し、栄養不良を来している場合や主治医がNST介入を必要と判断した場合に、NSTメンバーが集まって

どのようにして栄養状態をよくしていけばよいかを検討し、回診を行います。病気のために口から十分に栄養がとれない場合には、食事内容を工夫することや、点滴(静脈栄養)や栄養剤(経腸栄養)を追加・変更することを主治医に提案します。転院や退院の際には、治療継続の観点から転院・退院先へ栄養治療報告書の提供を行っています。

当院のNSTは、2005年より正式に栄養サポートチーム(NST)として活動を開始し、2006年には日本静脈経腸栄養学会(現日本臨床栄養代謝学会/JSPEN)のNST稼働施設として認定されました。2024年度は計650名の患者さんにのべ2188回の回診を行っています。これからも、NSTはそれぞれの職種が専門性をもちより患者さんの治療に貢献できるよう努めて参ります。



栄養サポートチームのカンファレンスの様子

インタビュー連載企画

「にしこうべ」のご紹介

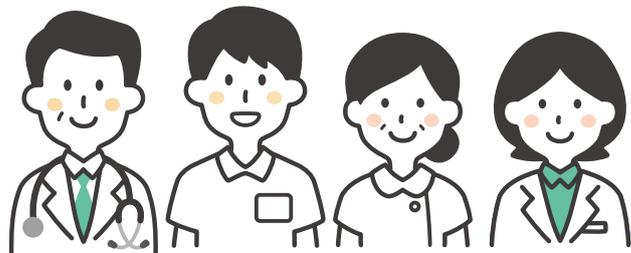
当院ホームページでは、院内の様々な職種の方にお話を伺うインタビュー企画「にしこうべ」を連載中です。

最新号では患者会チームの方々にお話を伺いました。

がん総合診療部では、がん患者さん・ご家族を支える「患者会チーム」を設置しています。コンサートなど季節のイベントやライブラリー、学びと交流の場である患者サロンの運営を通して、「参加してよかった」「生きるっていい」と前向きに生きる力を引き出せるようなサポートを続けてきました。そこに関わる職員自身、「取り組んでよかった」「また頑張ろう」と勇気をもらうこともしばしば。

今回は医師・看護師の4名に、日ごろどんな思いで活動しているのか語っていただいております。

「にしこうべ」記事は、当院ホームページ「広報」コーナーにてご覧いただけますので、ぜひご一読ください。



にしこうべ Vol. 27
「がんとともに歩む患者さんに、
笑顔で前向きに生きる力を」

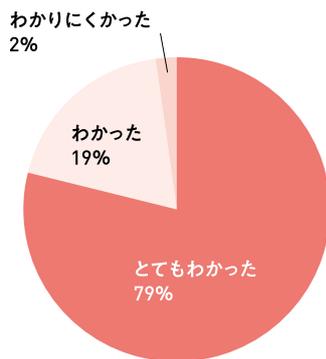
「がん市民フォーラムを開催しました」

11月22日(土)に「第29回がん市民フォーラム in KOBE」を開催しました。今回は「卵巣がん」をテーマに、当院産婦人科小菊医師より沈黙の臓器・卵巣がんと向き合う～卵管卵巣癌の最近の診断と治療について～、中央市民病院吉田認定遺伝カウンセラーより気になる遺伝～卵巣がんに関心を当てて～、当院がん相談支援センター相談員友次社会福祉士より医療費が心配！～知っておきたい高額療養費制度～の3講演を行いました。当日は現地43名、Web54名の97名の方にご参加いただきました。ご参加いただいた方々、ありがとうございました。

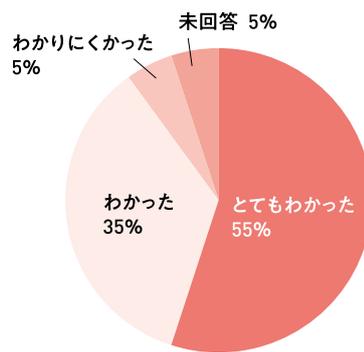
《アンケート結果》(一部抜粋)

Q 内容はいかがでしたか

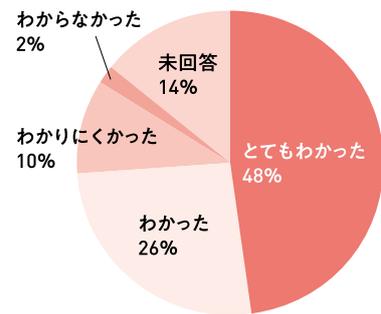
①沈黙の臓器・卵巣がんに向き合う
～卵管卵巣癌の最近の診断と治療について～



②気になる遺伝
～卵巣がんに関心を当てて～



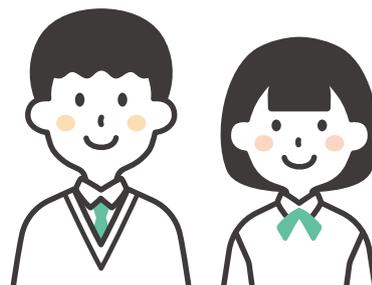
③医療費が心配!
～知っておきたい高額療養費制度～



Q ご要望やご意見など

- 休憩時間も細かに設定されていたので良かったです。また医学に関する事、それに付随する背景や社会的支援、医療費などの内容は非常にわかりやすかったです。ありがとうございました。また参加したいです。
- 各先生の講演をお聴きして、ネットでの情報だけでなく、専門の先生から正しい知識を学ぶことも大切だということ、また定期的に検査を受ける大切さが分かりました。いい勉強ができました。ありがとうございました。
- 大変有意義で自らの体(日々の暮らし方)を見つめたいと思いました。
- 両親と一緒に住んでいるので、親ががんになった時に知っておきたいことを講演してほしいです(例えば、病院の選び方、保険のこと(医療費関係)、退院後の生活など)
- できれば少し広げて再発時の状況等の様子も聞いてみたいと思いました。

トライやる・ウィークの 受け入れを行いました



11月10日（月）から11月14日（金）までの5日間、「トライやる・ウィーク」を実施し、神戸市内の中学生2名を受け入れました。活動の様子や、生徒さんからいただいた感想などをご紹介します。

＼ トライやる・ウィークとは？ ／

中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域での様々な体験活動を通じて、働くことの意義、楽しさを実感したり、社会の一員としての自覚を高めるなど、生徒一人一人が自分の生き方を見つけられるよう支援するものです。

出典：「地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」(文部科学省)

生徒さんの活動記録より

ミルクティーのろ過、手術、電気メスなど体験をしたことがないことをしたり、見ることでできてとても楽しかった

1日目：臨床工学室

2日目：薬剤部

3日目：看護部

4日目：臨床検

5日目：放射線技術部

看護師が一番患者さんに近い仕事なんだと理解できた

がんと元気な細胞には回復スピードに差があるから、その差を上手く使っているのがすごいと思った

慣れない体験の連続で帰る頃にはくたくた、なんて様子も垣間見えましたが、毎日いろんなことを吸収してくる様子をうかがうことができました。生き方を選択するための礎の一部として、この経験が活かせることを願っています。

地域とともに、呼吸器疾患診療を支える

～紹介・連携で患者さんの未来を守る～

呼吸器センターのご紹介

呼吸器センターについて

西神戸医療センターの呼吸器センターは、呼吸器内科・呼吸器外科が同じ病棟で診療を行い、肺や気管支など「呼吸」に関わる病気を専門に診る診療部門です。

咳や息切れ、健診での異常など、身近な症状の背景に、喘息・COPD(肺気腫)・肺炎・間質性肺炎・結核・非結核性抗酸菌症・肺癌などが隠れていることがあります。原因を丁寧に見極め、適切な治療につなげ、患者さんが安心して日常生活を送れるよう支えます。

多職種・多診療科で支える“チーム医療”

呼吸器内科・外科が常にコミュニケーションをとりながら診療している点は当院の強みです。たとえば腫瘍が見つかった場合でも手術適応の可否をすぐに確認でき、内科・外科両方の視点が必要な膵臓などの疾患にも素早く対応することができます。さらに必要に応じて、放射線科、病理診断科など関連する専門診療科と連携し、検査や治療方針を総合的に検討します。呼吸器の病気は、手術や薬の治療だけでなく、体力・栄養・生活環境・在宅療養の準備なども重要です。多職種のチーム医療で患者さんを支えます。

たとえば、こんな症状があればかりつけ医に当院への紹介受診についてご相談ください。

- * 咳が2~3週間以上続く
- * 息切れ(階段や坂道でつらい、以前より苦しい)
- * 肺炎と言われたが、発熱が続く、治りが悪い、繰り返す
- * 血痰が出た
- * 健診で胸部レントゲン・CTの異常を指摘された
- * 喘息、COPDの症状が不安定、増悪を繰り返す

※強い息苦しさ、会話が難しい、唇が紫になる、意識がぼんやりする等があれば、迷わず救急受診をご検討ください。

呼吸器内科医長 山本 正嗣

■ 年間患者数の多さが示す『呼吸器センターとしての求心力』

2024年は呼吸器内科で入院18,194件・外来17,051件、呼吸器外科で入院3,812件・外来5,240件と、地域から幅広い患者さんを受け入れています。内科では肺がんから感染症、慢性呼吸器疾患、結核まで多様な疾患に対応し、外科では区域切除・単孔式手術・ロボット支援下手術をはじめとした幅広い手術手技で、腫瘍の種類や進行度に応じた治療が可能です。この「診断力 × 手術力」の両輪が揃っていることこそが、呼吸器センターの中心的な価値となっています。

■ 多職種が治療の前後を全周囲から支える体制



内科・外科に加え、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、MSW が連携し、外来・入院・退院支援のすべてを通して患者さんをサポートしています。特に外科では、外来の段階でリハビリが介入し、手術リスクを評価。入院後はスクリーニングを行い、高齢患者さんや低肺機能患者さんでも安全に治療が進められるよう支援します。

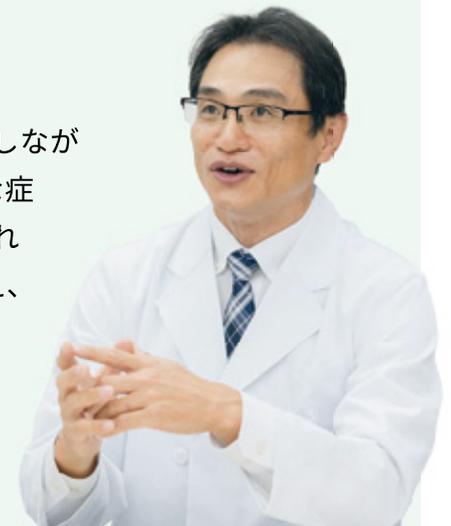
一方、内科での薬物療法においても、服薬指導・副作用管理・栄養指導・地域連携・退院支援・リハビリと多職種で患者さんの治療を支えます。両科の強みが組み合わさることで、「治療前から退院後まで切れ目なく支える呼吸器診療」が実現しています。



【外来化学療法センター】

■ 「どんな症例でもまず相談できる」センターへ

総合病院としての強みを活かし、かつ、外科・内科が互いの専門性を補完しながら、患者さんにとって最善の治療を選択できる体制を整えています。どんな症例でも「まず相談できるパートナー」として、地域のみなさまのお役に立てれば幸いです。「患者さんにとって利益が害を上回る治療とは何か」を常に考え、多職種と協力しながら治療選択の精度を高めていきます。



呼吸器外科医長 本山 秀樹

リハビリテーション技術部のご紹介

リハビリテーション技術部には 23 名の療法士が在籍しています。病気や怪我によって身体に何らかの障害をもった方に対し、失った機能の回復や残された能力を最大限に高めることを目標に治療や訓練を行います。急性期から早期に機能回復を目指し、なるべく早く家庭復帰や社会復帰できるように援助していきます。当院では各診療科と連携をとりながら徹底したリスク管理の下、クリニカルパスの利用、病棟での回診やカンファレンスへの参加を通してチームとして患者さんをサポートできるように心がけています。

理学療法士 (PT)

理学療法では身体に障害がある方を対象にその障害の軽減と予防、日常生活動作能力の改善を目指して実施しています。地域の救急中核病院の一部門として、できるだけ早く理学療法を開始し、入院患者さんの早期離床、早期回復を促せるように努力しています。

作業療法士 (OT)

作業療法では、身体、精神・認知機能面を評価し、生活に必要なとされる機能の向上を目指します。また、生活指導や道具の改良など、障害を持ちながらもよりよい生活を送っていただけるよう、日常生活動作や、その人に必要な動作の改善の一助に努めています。

言語聴覚士 (ST)

成人の嚥下訓練、失語症訓練、構音訓練は当院入院中の方を対象に行っています。外来では成人、小児の音声障害に対する訓練を積極的に行っています。また小児の言語、聴力、コミュニケーションの評価を行っています。必要に応じて、発達に関する助言指導、発音の訓練も行っています。

資格・認定

各学会の認定・専門療法士、3学会合同呼吸療法認定士、NST 専門療法士、心臓リハビリテーション指導士など専門的な知識・技術・資格を備えたセラピストが多数在籍しており、治療・訓練を安心して受けていただける環境を整えています。

新たな取り組み

臨床・研究・教育をモットーに学術活動も積極的に行っており、神戸西地域を中心とした施設間の壁を越えたセラピスト同士の連携を図っております。また、神戸市における急性期から在宅までシームレスな介入を実施するために神戸地域一体化リハビリテーションコンソーシアム (CURE-KOBE) に参加しております。